

344  
112



始





744

112

眾議院議員鈴木梅四郎演說  
荒波市平速記

# 平和的世界統一政策

東京 博文館藏版



344-112

衆議院議員鈴木梅四郎演說

荒波市平速記

# 平和的世界統一政策

東京 博文館藏版

大正  
1.11.29.  
丙寅



## 自序

此編は本文に述ぶる如く第十一回衆議院議員總選舉の際、候補者として東京市より打立ちたる時、政見發表の立合演說會に於て演說せし所なるを、明治四十五年六月慶應義塾大學部政治學會の一集會にて更に再び演說したる際、荒波市平氏に速記を托して記し置きたるものなり

允文允武にして聖徳世界に輝き御一代の勳業、世界歴史の上に一大奇蹟を印せられたる



明治天皇陛下俄に崩御あらせられ、國民一般慟天哭地の中に大正の御代を迎へて悲喜交も至るの今日、早くも已に帝國今後の國運に關する評論起り、我同盟國たる大英國のロンドンタイムス紙上に悲樂兩様の記事を掲げたるを始として歐米の評論界に又種々の説あり、隨て我同胞中にも亦自ら喜憂の説を異にするものあり、事に觸れ、物に接して此國運の前途に關する議論は昨今特に紛々を加へたるが如し、嗚呼我大日本帝國の國運今後果して如何、上には叡聖文

武なる

今上陛下の國事に聖慮を勞させ給ふあり、下には忠君愛國の念に富みたる六千餘萬の同胞、燃ゆるが如き赤心を以て奉公に勤むるあり、況んや

神武天皇已來の大聖主たる

明治天皇陛下の遺し給へる大訓詔の優渥なるものあるあり、我國運の前途、豈に一點の悲觀すべきものあらんや、然りと雖も世界は今や春秋戰國の時代なり、弱肉強食の世の中なり、片時も



放心を許さず、瞬間も油断を與へず、國民互に深く誠めて協力一致し、百折不撓の勇猛心と氣呑宇宙の大抱負とを以て奮勵努力するにあらずんば安んぞ能く

先帝陛下の遺し給へる大訓詔と

今上陛下の大宏謨とに報る奉ることを得んや、惟ふに世の識者先輩此問題に就きて定めて種々の名論卓説あり、宜しく國民を指導する所あるべしと信ずるが故に此際謏劣を省みず敢て此愚論一編を公にし以て其教訓を仰ぐの資料

となすものなり、讀者希くは愛國の至情を以て啓蒙の勞を吝むこと勿れ

大正元年九月十五日

吞天居士 鈴木梅四郎敬記



## 平和的世界統一政策目次

- 緒言……………一
- 國是を一定するの要……………四
- 舊國是を捨て新國是を立つべし……………七
- 新國是は何を標準とすべきか……………一二
- 交通に於ける古今の變態は如何……………一五
- 宗教其他に於ける古今の變態如何……………一九
- 世界各國古今の變態は如何……………二二
- 世界萬國の將來は一に歸すべし……………二七
- 萬國は如何に歸すべきや……………三一
- 五大強國は如何なる特長ありや……………三四



○日本帝國の特長は如何……………三七

○平和的世界統一を新國是とすべし……………四八

○新國是の下に最も努力を要する一問題……………五一

○平和的世界統一は日本の天職なり……………五四

○ユートピヤにあらず焦眉の急問題なり……………五七

目次終

平和的世界統一政策

衆議院議員

鈴木梅四郎演説

荒波市平速記

○緒言

今晚は我慶應義塾大學部政治學會幹事より集會があるから  
 來て話をしろと云ふ御案内によりて伺ひました御承知の通り  
 私は今度衆議院議員に當選しまして、當年の議會から問題があ  
 れば議政壇上に立つの身の上でありますから、實は少し演説の  
 練習もしたし、又政治を常に御研究になつて居る貴會諸君の御



高論をも承りたし、旁々御案内を幸として伺つた次第であります。所で今晚御話しまするは、日本帝國の國是を如何にすべきか」と云ふ演題であります。是は私が選舉運動の際に唯一度政談演説をやりました、即ち神田の青年會館に於て、例の立合演説をやりました時の演題でございます。此時の辯士は非常に大勢で、時間が甚だ少ないものであります。此演題に因りて唯愚説の概要を話したのみであります。併し演説が拙であつた爲にイロ／＼な妨害や批評を受けました。殊に選舉係りの新聞記者諸氏は私の論旨を聞いたのであるか、聞かぬのであるか、分らぬやうな批評を致し、甚しきは柄にない大法螺だとか、或は某新聞の如きは、亡者の世迷言と稱へて居りました。尙ほ其他イロ／＼な批評のある中に、東京市から俱に立つて競争を致しました高木

益太郎君の如きは所謂政見發表の演説會に於て、私の此演説に對して非常な悪罵を加へ、アノ演説ではどうか氣が違つて居るに相違ない、氣が違つて居る人間を議會に送るは東京市の恥辱である、宜しく彼は癲狂院に送るべし、と云ふ酷評を下しました。それが唯一回のみならず四谷に於て、神田に於て、日本橋に於て、淺草に於て、殆ど各區到る所で例の調子で致しました。然れども私自から考へまするのに、成程亡者の世迷言であるかも知らぬ、柄にない大法螺であるかも知らぬ、併しながら自分が所謂議員の玉子として候補者となつて打立ち、初めて政見を發表するのであるからして、多忙中ながら少々考へて組立つた演説でありますから、どうか選舉運動に熱狂して居る有権者及反對候補者に雇はれた御雇聽衆と云ふ者ばかりに聞いて貰ひたくない、と



うか眞面目な人に一遍聞いて貰つて、果して癡狂院に這入るべきや否やを決定したい(大笑)そこで今日は此機會を利用するのは相済みませぬけれども、眞面目なる諸君の御批評を承りていよいよ癡狂院入か、どうかを定めたく、再び此失敗したる演題を持出して御話する譯であります、それで少し時間が長くなりますかも知れませぬが、其邊は御辛抱下さることを希望致します。

### ○國是を一定するの要

所で此帝國の國是を如何にすべきか、國是は言はず國の目的とも云ふべきものであるから之をチャンと一定する事が頗ぶる大切な事柄であります、例へば學生諸君に於ても學生としての目的がなければならぬ、政治科の學生は政治科を専攻する爲

に學問するに極つて居る様なもの、將來の處世上矢張り確固たる目的を立てなければならぬ、何故なれば政治科を専攻しても卒業後何をするかと云ふとイロ／＼ある、或は政治科の教授となり又學者となつて政治科の學問を大に研究して行かうと云ふ目的の人もございませう、或は政治社會に飛出して實地の政治に關係しやうと云ふ人もございませう、同じ政治科の學生でも、將來の目的に因りて心掛が違はなければならぬ、即ち一つ實地政治家になつてやつて見やうと云ふならば此學問を研究する間に、平生に於てもイロ／＼な心得があります、先輩で實地の政治に與つて居る人の所に行きて、實地の政治談を聞くとか、或は今日世間にイロ／＼な仕事をして居る人に付いて、政治的から研究して見るとか、云ふやうな事も必要でございませう、或



は又學者となり教授となること云ふ者ならば矢張其考へで學理的に將又研究的に勉強せねばならぬでありませう、卒業後の目的と云ふものが立つて居らぬと成程學科は卒業するに相違ないけれども、其間の一舉一動本を讀むにしても、新聞雜誌を讀むにしても、人と談論するにしても其目的に向つて常に心を用ゐること用ゐぬこと云ふことは、非常の差を爲すもので卒業までの永い間に其處に損益の大違が出て參る筈であります、斯の如く學生にしても、チャンと其目的を立て、ソレに向つて常に全力を盡して行くことが必要でありますならば、國に於ても然らざるを得ない、國と云ふものが將來どうして行かうと云ふ目的即ち國是と云ふものを確實に立て、參らなかつたならば、其國の事は知るべきのみで、随分頓珍漢の事が多からうと思ひます。

### ○舊國是を捨て新國是を立つべし

所で日本には今日まで國是は無かつたかと云ふに、否々然らず國是はあつた、ソレでは今日までの國是は何であるかと云ふと、維新の際に發せられた五條の御誓文が土臺となつて、所謂開國進取と云ふ事が先づ日本の國是である、國を開いて進み取る、即ち智識を世界に求めてさうして進んで行かうと云ふ事が日本の國是だ、私は思ふ、併し是は五十年前に立てられた國是であつて、今日此國是を其儘遂行して行く値打があるか否や、と云ふ事を考へます、既に御承知の通り日清日露の戦役を経て我帝國は世界の強國になつた今日である、世界の形勢が大變違つて居る今日である、斯う云ふ開國進取と云ふ古い國是を墨守



いて、今後もやつて宜しいか、どうか、云ふ事は、もう言はずして、明白なことで、此際新に國是を立て、行かなくてはならぬ、云ふ必要に逼つて居るのであります。此問題はナカ／＼難問題であるが、併し今日の日本としては、どうしても將來に向つて一つ新たに國是を立派に立つて、其國是に従つて政治家は無論の話、學者、官吏、宗教家、農工商に至るまで、上下一致して此目的に向つて全力を盡して行かなくてはならぬ時であります。然るに此問題に付いては、どうも私が寡聞の爲であるかも知れませぬけれども、聞いて未だ感服致します。やうな所謂新國是論を承つて居らぬのであります。先づ第一に日本の政治の中心となつて居る、所謂藩閥元老政治家は果してどう云ふ意見を懷いて居るか、どうも斯う云ふ工合に新に我が國是を極めて行かなくてはな

らぬと云ふ様な、確固とした論を聞いた事はない、又其爲す所を見ましても、西の方へ向いて行つたり、東の方へ向いて行つたり、どうも一定しないやうな、否事に因ると開國進取の舊國是にすら反する施政の結果も見える、どうやら未だ新國是は定つて居らないやうに思ふ、又政黨政治家は夫ならば果して新國是を定めてそれに向つてやつて居るか、どうか、是亦私の智識の足りない爲めか知りませぬが、聞見する所に於ては矢張り立つて居らない、例へば政友會なり、國民黨なりの所謂主義綱領なるものは、即ち此國是論と云ふものを土臺として起るべきものであるが、此主義綱領と云ふものを見ますと、一向新時代に向つて適當なる所の新國是が無いやうに思はれます、何故なれば今日の政黨の主義綱領は相も變らずの主義綱領である、昔々大隈伯、板垣伯



なごが、民選議院を主張せられた時分に立てられた所の主義綱領に少々位形變へをしたに過ぎない、例へば帝室の尊嚴を維持する事とか、國權の振張を圖るとか、或は財政を整理して減税をどうするとか、或は外交をどう斯うするとか、箇條書に并べてありまするが、皆大同小異で言はゞ紋切形同様、政友會も國民黨も中央黨も殆んど同じやうな事を標榜して居る、さうして其精神は三十年以前の民選議院時代のものを相變らず襲踏して居ると云はなくてはならぬ、所で斯ういふ事である爲めに此時代に入りながら日本の政治と云ふものは殆ど外交にしましても、財政にしましても、一定の新方針を取つて着々進んで居らない、イロ／＼前へ進んだり、後に戻つたり、右の方へ行つたり、左の方へ行つたりして居る、實に遺憾千萬ではありませんか、然るに歐

米諸國の實際を見ますると云ふと、全くさうでない、時代に適應せる國是を確定してそれに隨つて政策を施して居る様に思はれる、私は世界各國の現國是を一々承知して居る譯ではございませぬが、併し書物や新聞雜誌で見ますれば、先づ畧々分るだらうと思ふ、例へば露西亞は彼得大帝以來即ち武力を以て歐亞大陸を統一しやうと云ふやうな國是らしく見える、其爲す所、行ふ所を見るに、外交上から言つても其他内地の政策の上から言つてもイロ／＼ありますが、皆一定不變の政策を保持して常に其國是を遂行することに從事して居る、北米合衆國はどうかと云ふと、モンロー主義、又は全米主義などで公然と遣り來つて居る上、近來は大分之を擴張して帝國主義など、稱し、米國以外他の方面に向つて盛んにやらんとして居るが、是亦チャンと一定の



政變あれども國是は動かさず

目的がある、其他英國然り、佛國然り、獨逸然り、世界の強國と稱へる強國は必ず一定の國是があつて、其國是の向ふ所に随つてイロイロな新政策を立つて行くのだから、例へば内閣は幾度代るゝ雖も、主權者はどう變ずるゝも、施政の方針は大した差はない、損をせず、駁々、國運の發展を期して行くことが出来るのである、日本に於ては唯今申す通り、新時代に應じたる、其國是が定つて居らぬ爲めに、前申す通り甚だタラフラして居るゝ云ふことは如何にも残念な次第であります。

### ○新國是は何を標準とすべきか

然らばです、今日如何に此國是を定めたら宜からうか、云ふのが即ち今日の問題であります、是はナカ／＼大事な問題で

面白き格言

容易く吾々の經驗もなく、學問の無い人間が輕卒に之を立てる譯には行きませぬが、併ながら自分の愚案としては兎に角に國是を立てるには世界の形勢を能く見て、さうして此進んで行く所の世界の形勢に應じ、將又自國の状態を参考して立てなくてはならぬと思ふ、私は學生時代に斯う云ふ言葉を聞きまして、至極面白い言葉として居る、それはどう云ふ言葉である、云ふと、觀天地之大經、通古今之變態、察宇宙之形勢、志當世之先務、者始可俱語也、斯う云ふ言葉である、是は何人が言ふたのか、其言葉の主の名は忘れましたが、私は併し面白い言葉であると思ふ、私は國是は即ち此言葉に依つて立てたら宜からう、即ち今日の世界の現勢を極め過去の状態を能く明かにし、有ゆる事物、有ゆる社會の事情を大觀して、さうして其趨く所の情勢を見て取つて、それ



に適應した所の案を立てるが宜からう、斯ふ云ふ私は考であります、此立場からして先づ試みに私は此處で一つ天地の大經を觀て古今の變態に通じては居りませぬが、先づ變態を研究して見やうと思ひます。

世界の事物就中人事國事は古來どう云ふ工合になつて來たか、此問題を委しく御話すれば際限もありませぬけれども、極く簡略に申し上げますれば歴史有つて以來少くとも世界の人事國事は其盛衰消長を繰返して來て居るに云ふのは争ふべからざる事實である、此盛衰消長を繰返す間に所謂適者生存の理に依つて優者は存し、劣者は亡びて來りし、此長い間の經過の中に、其處に一定動かすべからざる所の一箇の傾向がある、どう云ふ傾向だ、と云へば年々歳々人間社會の事物が一步々々に進んで

來て、さうして遂に綜合的統一的の方向に向つて走りつゝある事である、即ち此傾向を名けて宇宙間人事國事の哲理である、と申して然るべきである、即ち此哲理の支配する所となりて大なるものは段々變じて來て小さくなり、廣きものは段々進んで來て、狭くなり、遠きものは段々近くなり、粗なるものは段々密になる、斯う云ふ工合にもものが改つて來る、さうして次第々々に綜合的統一的になつて進んで來る、即ち是が所謂古今の人事國事を觀察した所の結果である。

### ○交通に於ける古今の變態は如何

今百般の事物に付いて此事を論證するに云ふことはナカナカ容易な事でございますが、手近な交通の事に付いて御話し



て見たい、さうして其話は先づ近く日本の事に付いて御話しま  
せう、私は信州に生れました、即ち私の郷里は長野の在でありま  
すが、伊勢參宮と云ふことが古來盛んに青年の間にに行はれて居  
る、其伊勢參宮はどう云ふ風にやるか云ふと、矢張り草鞋穿き  
で出掛けるのであります、其道順は中仙道をズツト木曾路へ  
出まして伊勢へ參詣する、大抵は歸りに大阪京都を見物して歸  
つて来る、是が先づ手取り早い順路であります、之を三十年前に  
幾日掛つたかと言へば先づ四週間位掛つた、又歸りに東海道を  
經、江戸を一瞥して歸る者もあるが、是は五十日位掛かる、更に贅  
澤な者は高野に參詣し、琴平に參詣し、或は安藝の宮島に寄つて  
来る、斯う云ふものは七十日位掛かる、即ち私共幼少の時分の伊  
勢參宮の日割は大抵三通りに分れて早きが四週間、次は五十日、

長いのが七十日と云ふやうなことになる、所が今日はどうかと  
云ふと、交通機關が進歩して居る爲めに、此四週間で往復する所  
の道を取るに四日で行く、それから、大阪京都の見物をして東海  
道を來ると一週間、さうして更に高野琴平安藝の宮島を経て來  
れば十二三日で出来る、と云ふ程に今日は進歩して居る、然らば  
歐羅巴亞米利加の交通はどうか、是は私が詳しく御話し  
するまでもない、諸君御承知の歐米の交通で近世に至つて最も  
著しき變更を來したのは蘇士運河が出来た已後であります、爾  
來汽船の速力が疾くなり、亞米利加に横斷鐵道が出来て來ると  
云ふやうなことで八十日間、世界一週と云ふことは、世間の驚い  
た所の事實であるが、其後又イロ／＼改良が出来て、汽車の速力  
が殖へ、汽船の速力も増した爲に六十日間、世界一週と云ふこと



世界一週  
は伊勢参  
宮よりも  
速なり

飛行機  
の  
將來

になつた所で近年又西比利亞鐵道が出来て、それによる四十  
何日で世界一週が出来ると云ふ様なことになつて来た世界一  
週と云ふことは信州から伊勢参りをするのと比較すると非常な  
大相違の問題であるが、僅に三十年前に信州からの伊勢参りと  
今日の世界一週とはまだ世界一週の方が疾く出来ること云ふ  
始末で此變遷して来た事實は誠に驚くべき事である併しなが  
ら此驚くべき事實は今後又更に大に驚くべき事實を以て  
繼續するに相違ない例へば汽船にしましても五萬噸三十幾節  
の汽船が出来て大西洋を航海することが企てられて来ました、  
或は汽車の速力にしましては學理上では既に一時間百五十哩  
已上走ると云ふ見込のついた計畫もあるやうであります殊に  
況や飛行機飛行船の近年の發達から考へますと更に驚くべ

きものあるべく世界一週は或は五日か六日に短縮せらるゝに  
相違ない實に驚くべき事ではございませぬかかうなつて来る  
交通上から申せば五大洲の區別もなく海陸山川の相違もな  
いやうな譯でありますからヤレ露西亞ヤレ獨逸ヤレ佛蘭西杯  
と國を別けて大騒をするのも何んだか野暮に思はれる様な心  
地がする様ではありませんか即ち交通の前途が結局斯様に綜  
合的統一的になるのが私の所謂宇宙の哲理でありまして必然  
の傾向であります。

### ○宗教其他に於ける古今の變態如何

又少し方角の違つた宗教上の事實に就きて簡単に觀察しま  
するに、矢張同様であります御承知の通り宗教の歴史は殆んど



戦闘の歴史でありまして異教同志の戦争は最も激烈なるものでありましたは申すに及ばず同じ宗教でありながら其派を異にしたる爲めに互に相戦ひ相争ひ幾多の人命を損し家を亡し國を亡ぼすに至りたる事實は歐洲にも亞細亞にも澤山あつたではありませんか然るに學問が進み智識が開けて來るに従ひ此種の争は次第に減少し近世に至りては同宗にて派を異にせる爲めに血を流して相争ふと云ふ事もなく特に文明日進の今日に於ては異宗教同志の間も至極平和靜穩となりて互に他を研究するの要を感じ萬國宗教會議杯も催はされて昔日の殺伐な様子は少しも見ることが出来なくなり現に我國に於ては新聞紙上八ヶ間敷かりし三教會同行はれた始末でありまして今後は三教どころか回教も猶太教も或は天理教も一緒に會同し

て相談する様になるに相違ないと思ひます即ち同宗にして派を異にしたるもの同志さへ血を流し家を亡し國を失ふて迄相争ふたるものが今は一堂の中に集會して互に宗義を研究する迄に至りたる此變遷進歩の驚くべき事實を観察しましたならば私の所謂宇宙哲理の支配する所となりて此宗教も亦交通同様の成行を見るに至るべきことは實に明白の事と思はれるではありませんか。

所では是は交通機關と宗教の上ばかりでない文學に技藝に工業に商業に農業に人事百般皆趣こそ違ひますけれども矢張り此哲理の支配を受けることは免れずで同じ調子で進みつゝあるのであります私に茲に此國是問題に付いて最も重要な關係を持つて居る所の世界萬國の形勢は、どう云ふ風になつて



來たかき云ふ事の一節を特別に御話して見たい。

### ○世界各國古今の變態は如何

サテ世界萬國の今日迄の形勢の推移はと申すと、ナカ／＼大問題で煩はしい事でございますが、便利の爲めに私は世界六大強國の近世の發達概畧を一つ觀察しませう、第一に大英國はどうか、大英國は古くより航海の開けたる國であります爲めに、御承知の如く其發展が中々盛んであります、さうして今日では本國の外に亞弗利加に於ては埃及を始め中部亞弗利加にも領地を持つて居る、殊に南部亞弗利加に於ては非常に有望なる領地を持つて居る、濠洲及加奈太は殆ど其全部が英國の所領となり、亞細亞の方へ來ましては幾多の邦國に分れて居つた

大英國

佛蘭西

印度を統一して、之を領して居る、更に東して海峽殖民地の邊にもナカ／＼英領は擴つて居る、更に東には香港に領地を持つて居る、殊に近來亞細亞大陸の中心たる西藏に手を着けて今は殆ど其勢力範圍にして居る、又更に支那の所謂揚子江の沿岸の一番の大事な所を、他國の人がイロ／＼政治的に彼是申して居る間に、經濟的に殆ど自分の領地に近きまでに勢力を扶植して居る、即ち大英國の今日までの發達の有様は實に驚くべき事である、次に佛蘭西はどうか、佛蘭西は大英國程ではございませぬけれども、是もナカ／＼偉い、亞弗利加に於ても相當な領地を持つて居る、マダカスカルは全部、濠洲のニューカレドニヤも全部夫から亞細亞に來て交趾支那即ち東京方面を領有し、殊に近來は支那の雲南の方面に向つて大に勢力を發展して居る、世



人一般に佛蘭西はもう大分年取つた國のやうに考へて居りま  
すけれども、此發展の有様を見るに中々非常な勢であります、そ  
れなれば獨逸はどうか、獨逸は此英佛二國と較べますと  
少し違ふやうであります、獨逸は海外に發展する前に國內に於  
て英佛などと違つて大に發展した、即ち獨逸聯邦がイロ／＼に  
分れて居つたものを合一して今日の獨逸帝國を造つた、所謂白  
耳曼人種の邦國は奥匈國の外は残らず統一したのであります、  
故に海外の事は大した發展はして居りませぬが、併ながら亞弗  
利加にも相當に領地を持つて居る、濠洲方面のサモア群島も領  
有し、近くは又膠州灣に其手を伸して、彼處で頻りに發展の計畫  
をして居る、又南米方面に向つては自分の領地ではございませ  
ぬ、他國ではありますけれども、ブラジル其他の地方に於て獨逸

は所謂殖民と云ふもので、殆ど獨逸領の如き堅實なる發展をな  
しつゝあるが事實で所謂霸氣勃々云ふべきか、又は虎視眈々  
と云ふべきか中々の勢で發展して來て居る、然らば露西亞はど  
うであるかと云ふと、露西亞は彼得大帝以來の國是を遂行して  
遠く海外に手は出しませぬけれども、自分の地續きの所、先づ波  
蘭を亡して其大部分を我物にし、西比利亞を占領し、黑龍江流域  
の大部分を支那から取つて、更に昨今に於ては所謂北滿洲の外  
に、更に蒙古方面に活動して居る、即ち土地の廣袤から申せば其  
發展は大英國已上と申しても善い迄に發展して居る、然らば亞  
米利加合衆國はどうかと云ふに、獨立の時分には十三州  
であつたが今日は四十餘州に増加したる其上に布哇を合併し、  
更に比律賓を領有して了つた、それから南の方に墨國の一部



とパナマ等を領有して猶ほ之に満足せず更に近來は墨西哥に向つて非常なる計畫を立て、殆ど今日墨西哥は合衆國の勢力の下に在ると言はしむるまでに至つた、更に支那方面に向つては一層雄心勃勃たるものがあつて、吾々が多年幾多の財産を投じ、幾多の人命を損じて、僅に優先權を得た所の滿洲に向つてすらも合衆國は所謂滿洲鐵道中立問題など云ふ偉い問題を擔ぎ出して、自分の希望を遂げやうと云ふ計畫を爲し、其發展も實に非常に驚くべきものである、所で我大日本帝國はどうか、日本も亦ナカク驚くべき發展をした、先づ琉球を版圖にした、臺灣を領有した、日露戰爭に於て樺太の半分を取つた、殊に最近に於ては朝鮮を合併した、更に進んでは南滿洲に向つて勢力を發展して居る次第では亦非常の發展と云ふべきである。

○世界萬國の將來は一に歸すべし

斯の如く世界六大強國の發展は非常に著しいものであります、此六大強國の外の國も亦たソレ相應に發展して居るは申す迄もないが、偕此大發展の裏面は如何と云ふに、幾多の被食國があつて、即ち世界萬國の状態は或は合併され、或は保護せられ、或は全く亡ぼされて、其數を次第に減少し、來り私の所謂宇宙哲理の支配を受けて、綜合的統一的に進んで居ると云ふことを證明することが出来る、斯の如きものが先づ世界萬國過去の形勢である、此哲理の支配はどうか受けてない、はなぬと云ふことであつたならば、今後世界萬國の將來はどうか、賢明なる諸君は定めて已に御推知が



出來るであらうと思ふ。

尤も世界の事物は見様によつてはイロ／＼に見えます、今日に於て各國ともに海陸軍の擴張をして、頻りに兵を練り、新式の軍艦を拵へ、其他飛行船、飛行機等イロ／＼な軍備の擴張及研究を努めて居る、さうして時機さへ來たならば乗じて以て他を併呑しやうと云ふ事がもう目に見えて居る、甚しきは一公使が遭難に依つて死んだと云ふ爲めに亂暴にも他人の國を占領して遂に今日に至るまで永久に領して居る、と云ふやうな事さへも行はれて居る、又經濟上から見ますと、所謂關稅政策なるものを立て、自分の國の物を保護し、他國の貨物を排斥する、と云ふやうな政策を立て、頻りに我田引水的の政策を立て、やつて居る、其他總てやる事爲す事、一々數へ來ると云ふと、猜疑、嫉妬、反抗、排

斥等の諸惡徳を事實に繰返し／＼て實行して、さうして己を利する事ばかり努めて居る、丁度支那の春秋戰國時代の有様を現出して居る、して見ると云ふと此状態はナカ／＼容易に改まるやうには思はれぬ、先づ此修羅の巷の事情は永久續くであらうと思はれないでもない、去りながら退いて冷やかに宇宙哲理の上に照して考へて見ますと、決してさうでない、と云ふ事が分る、各國俱に唯今申すやうな我田引水の事をイロ／＼やつて居る、間にでも萬國平和會議とか、萬國議員の集會とか、又は萬國衛生會議、萬國海防會議、萬國宗教家會議、萬國人種會議、と云ふやうな集會が續々行はれて居る、此種の會合も其名美なれども其實は我田引水に流るゝものが多い様なれども、一回は一回よりも進歩し、改進しつゝあるは争ふべからず、慥に此哲理の支



到底の  
支配を  
免れず

天下を  
如何に  
定むべ

世界の  
歸一を  
示す

配する方向に向つて進んで行く事は確實なる事實である。申すべきであります。左すれば如何に考へて見ても世界萬國の將來は此哲理を以て推測して行くべきである。これは最早毫も疑を存せざることはありませんか。

昔梁の襄王が孟子に尋ねた事がございます。天下は如何に定まるべきか。其時孟子が天下は一に定まると云ふ答へをした。私は敢て孟子を氣取る譯ではございませぬが、諸君が若し世界萬邦の形勢將來如何になるであらうか。云ふ御尋がございませぬ。私は一言にして御答を致します。ソレは即ち世界の萬國必ず一に歸するであらう。云ふことであります。是は宇宙哲理の命ずる所であります。過去人間歴史有つて以來世界の形勢が斯の如く段々進んで來て居る。是は必然の結果である。世界に免

天下は  
如何に  
定むべ  
かに如

かるべからざる所の傾向である。即ち哲理の命ずる所の運命を申して宜しい。私は考へる。

### ○萬國は如何に歸一すべきや

諸宇宙の哲理は右申す通りであるが、併しどういふ工合に是が一に定まるであらうか。襄王は重ねてどう一に定まるのかと尋ねた時、孟子は人を殺すを嗜まざる者之を一統するだらうと云ふ答でありましたが、諸君若し襄王を學んで同様の再問を發したならば、私は此世界の強國の中で何處の國も競争して容易に及ぶことの出來ない長所及特點を多く持つて居る國が結局統一的の主位に立つであらう。云ふ事を斷言致します。

此問題は極めて卑近な例を以て説明する事が出來ます。又國



の話が出まするが私共幼少の時分に村落の合併が行はれた事  
 がありました彼の市町村制施行の前用意でありましたが舊幕  
 時代の儘の村落では村が小さくて自治の力が乏しい爲に多き  
 は四五ヶ村少きも三ヶ村位合併が行はれた事がある其頃此村  
 の合併の時の大問題は何であつたか云ふ合併した新しい  
 村で誰を其主権者即ち戸長に戴いて行くべきか云ふのであ  
 つた其時どう云ふ資格の人が多く戸長に選ばれたか云へば  
 其合併された各村の中で一番長所の特點の多かつた人即ち家  
 柄が舊いとか或は人格が高くて非常に村内で評判が宜いとか  
 或は非常に才氣學問があつて人の尊敬する所であるとか或は  
 非常な金持であつて公益の爲には随分金を惜まぬとか斯う云  
 ふ事情が一つばかりでなくして少なくとも二つ三つ以上を持

つて居る人が戸長に選ばれたものです此類の事實は町村合併  
 の場合のみでなく他の場合にもある事柄である例へば學生諸  
 君の級とか會とかで級長又は幹事等を定むる時でも同様の事  
 がある或は年長者であるとか學問が能く出来るとか或は周旋  
 奔走の事に長けて能く世話をするとか必ず二三の特長を持つ  
 て居る人がそれになる云ふやうな事で人事自然の事實であ  
 る否之が又殆ど争ふべからざる人事の定則と申して宜ろしい  
 のである此の定則を以て推しますると少くとも私が先刻來御  
 話しました六大強國の中で一番他國の競争する事の出来ない  
 特長を多く以て居る國が將來理論上必ず來るべき世界統一の  
 際に其主権を握るべき位置に立つものであると言ひ得ると思  
 ふ。



## ○五大強國は如何なる特長ありや

其處で此六大強國の中で、この國が一番多くの特長を持つて居るか云ふのが又研究問題であります。試みに大英國を觀察して見ませうか。大英國は領土も廣く、金もあり、人間も沈着で、宏量で、勇氣もあり、て、ナカ、立派な特長を多く持つて居ります。併し、どうでございませう、此等の特長の中で他國人の到底學んで達せられざる獨特の長所即ち争ふべからざる特長は幾つありませう。領土の廣く富力のある云ふ點は北米合衆國が遠からず大英國を凌駕する云ふ形勢ではありませんか。さうするに大英國の特長は英人特有の沈着で、宏量で、勇氣がある云ふ邊でありませう。が、此れ丈では世界統一者の候補者として、は

未だ完全な優秀者なりとして安心する譯に参らぬではありませんか。然らば佛蘭西は、どうであるか。佛蘭西は私が茲に詳しく説明するまでもなく諸君が既に御承知の通りの國勢であります。ギゾー氏が歐洲文明の中心と論定した盛時は已に過去に屬して居りはせぬか。其人口の年々減少するが如き國勢は既に十二時を通り越した午後の形勢ではないか。言はれて居る、どうも世界統一者の候補の資格は乏しいやうに思はれる。次に獨逸は、どうであるか。獨逸も新進氣鋭の勢を以て盛んに活動して居ります。歐洲外交の中心否、世界外交の問題上、獨逸は毎時主動者の地位に立てるのみならず、學問特に科學に於て非常に優等の地位に居り、商賣も工業も随分偉い勢で居る様で御座います。けれども、どうも他と比較して争ふべからざる獨特の長所は



さう多くはない様に思はれる、随つて世界統一者の優勢なる候補は、どうも言はれぬ、然らば露國はどうか、露國に到つては彼の英傑ナポレオンをして世界は將來露國の爲に征服せられるであらうと云ふやうな嘆聲を發せしめたものであります、が、今後果してナポレオンの恐れた通りに行きますか、どうですか、是又問題であらうと思ひます、成程武力は強いかも知りませぬ、然し其文明の進歩は如何、今日の如く、駭々として進んで參る時勢に於て、露國が武力のみで盟主にならうとは、どうも思はれ兼ねる様です、然らば亞米利加合衆國はどうか、合衆國は成程金持である、殊に天恵に富んで其開發すべき富源は無盡藏と云つて居る國である、又科學を應用して種々の新事業を大仕掛にやつて行く一段になる、と他の國々が遠く及ばぬ所で、是等は皆

其特長である、實際他の争うべからざる特長があるには相違ない、が、是ればかりでは、どうであるか、其軍事上、其國民性の上に申分がないか、どうも二十世紀のカルセージに申したい様な多少心細い所はないか、候補者の中で優者には入るべきが、まだチト物足らぬ様に思はれる。

○日本帝國の特長は如何

然らば則ち我日本帝國はどうかであるか、少し我田引水かも分りませんが、有るは、特長がナカ、ある、到底他國の争ふべからざる非常な特長が澤山あると信じます、第一は何んであるか、と云ふに、二千五百餘年連綿として續いて來た萬世一系の皇室を戴て居る、世界で最も長く續いて一番系圖の正しい皇室を



戴いて居る事である。之れ世界に比類無きものである。印度の何  
こか云ふ回々教の一王家が千幾百年續いて居ると云ふ事で大  
分評判されて居るさうでありますけれども、我皇室に比すれば  
其年代が僅に半分に過ぎない、二千五百有餘年連綿として萬世  
一系で來られたと云ふものは實に地球上我皇室あるのみであ  
ります。此皇室を戴いて居ると云ふことが、之れ實に世界各國の  
争ふことの出來ない特長であります。そこで若し時機到來所謂  
世界統一の主權者を仰ぐ場合に際會せば、此二千五百有餘年間  
連綿たる皇室は論ずる迄もない、最善最優の資格の一である。  
第二の特長は何んであるか、それは未だ嘗つて一度も敵國外  
患から征服せられた事がない、所謂金甌無缺の國柄である。世界  
萬國多しと雖も未だ嘗て一度も敵國に征服されたことがない

と云ふ國は日本の外にはありませんか、開國以來二千五  
百有餘年の今日に到る迄國運駸々として進んで來て、敵國外寇より  
侵されたる一點の微疵もないと云ふことは實に國として立派  
な資格以て世界に誇るに足るべき特長では御座いませぬか。  
第三は何んであるか、それは國民が忠君愛國の念に富んで居  
ると云ふことである。或はちと古めかしいと云ふ説もあるかも知  
りませぬが併し、世の中が如何に進んで参り人の智識が如何に  
開けて参りました。人間世界である間は昔も今も同じです。人  
として自分の國を愛し、其國君に忠を盡すと云ふ事は人情美の  
極點である。徳義の崇高なる最絶頂である。同時に立國上最優最  
強の要素である事は永久に矢張り變らぬ事柄であると思ひま  
す。實に國民として最も貴ぶべき此忠君愛國の念は世界萬國日



本人に優つて居るものは御座いますまい。是は私が深く説明する迄もない事であります。

第四は然らば何んであるか云ひますれば國民の勇武非常に戦争上勇氣のある事云ふ事であります。随分歐米人にも戦争の場合杯ナカク、勇者がある、義烈鬼神を哭かしむるの事實少しは云はぬけれども歐米人全體の上よりすれば斯かる勇者は數に於て甚だ少しと言はねばならぬ。然るに我日本人はどうかあるか云ふに日清日露の戦蹟に徴するに國民皆非常の勇氣を有し死を見る事歸するが如し云ふの概がある、此問題に就て詳しく御話しすればイロ／＼の事實が御座います。露戦争中の旅順陥落の事實について説明するのが一番早いだらうと思ひます、日露戦争の前だと思ひます、佛蘭西の銀行家で

プロツポ云ふ人が有名な軍事上の著書をした、其書の一節の結論は科學の進歩、武器の改良、築城法の改良云ふやうな事が進んで來た今日は到底陸戰特に要塞戰などは出來べきものではない、例へば一分間に何百發、雨の如く霰の如く、又霧の如くに彈丸が出で來る速射砲云ふものがある、其上に堅牢なる鐵を敷むべき所謂塹壕とか城壁とか云ふものが拵へられる、逆も軍兵たる人間が是に向つて行つた所が到底敵し得べきものでない、そこで此科學の進歩、銃砲の發達、築城の進歩云ふやうな事から考へると云ふと戰費の點のみでない實際世界に戦争云ふものは無くなるであらう、斯う云ふ論もあつたやうに思ふ、當時此論は歐米に於てもナカク、盛んに稱讚されて實に嘖々として一時評判であつた、斯く申す私も其時分其説を讀んで或は



さうかも知らんこ考へた次第であります、然るにです、明治三十  
七八年に亘つて日露戦争あり、さうして吾々の同胞は此戦争の  
爲めに如何なる働をしたか、例へば旅順攻撃と云ふことに向つ  
てどう云ふことをしたか、丁度旅順の要塞に向つて戦をしたの  
はプロツポ氏が申す所謂進歩したる築城進歩したる科學と戦  
つたのであります、即ち人間の肉弾と、此科學と戦つたのであり  
ます、であるからプロツポ氏の論法で言ふとクロパトキン將軍  
の確信の如く到底旅順などは攻落すべきものでない、所謂難攻  
不落の要塞であるに相違ない、所が此難攻不落の要塞、學術上か  
ら見て完全なる此築城と銃砲の改良されたものに向つて大  
和魂を持つて居る日本人が向つた結果は、どう云ふものであつ  
たか、成程最初は失敗した、屍の山を築き、血の川を流して失敗し

た、けれども段々研究して遂に坑道作業などを起して、即ち肉の  
塹壕を築き、肉の弾丸を飛ばして遂に之を陥落せしむるに到  
つた、其の爲めに此科學で疑もなく結論を受た所の事柄が反對  
に日本人の手に依つて此陥落が成功して居ると云ふ事は、全く  
日本人の勇氣に歸せざるを得ない、そこでプロツポ流の斯の如  
き結論あるにも拘らず、日露戦争の後には日本が歩兵操典を改  
め、最後の決戦は非科學的の白兵戦にあると云ふ事になつたか  
ら、歐米の先進國も歩兵操典を日本の様に改めた、と云ふ様な事  
で、科學の命ずる所以上のことを日本人はして居る、即ち日本  
の武勇が世界中最も優れたるもの、武勇の爲めに此科學の結論  
を動かしたと云ふ事を説明することが出来、此勇氣と云ふも  
のは決して白哲人種にもない、赤色人種にもない、況や黒色人種



にもない黄色人種の中でも我日本人唯一人種あるのみ、即ち日本人の此勇氣云ふものは世界の各國人の到底争ふべからざる特長であります。

第五は然らば何んであるか、それは博愛慈仁にして度量廣大であることである、日本人を貶する人々の中にはイロ／＼に申します、日本人はごうも非世界的であるとか、偏狭であるとか、イロイロな論を致しますが、然しそれは一部分を見た話しでございまして、日本人と云ふものは古來非常に博愛慈仁で度量廣大で、如何なる種類の國民でも之れを容れて親和して來つたものである、過去の歴史を顧みても分りますが、遠き昔に於て朝鮮人、支那人などは既に日本人の徳に浴し愛に化せられて日本に歸化した人が澤山あります、古來日本人は外國人にて決して毛嫌

いをせず、之れを對等に能く容れて居つたこと云ふ事實は澤山あります、殊に日露戰役などで最も世界の稱讚を博したるは、捕虜の取扱ひに就て驚くべき所の博愛慈仁度量廣大の性質を現して居る點であります、又北米合衆國あたりでネグロ人を扱ふのはまるで非人の如き扱ひをして居りますが、在米の日本人は之れを一視同仁に扱つて居ると云ふ爲めに、黒色人は日本人に非常に心服して、非常に頼母しく考へて居ると云ふが事實である、此點は白哲人種が如何に誇つても到底日本人には及びませぬ、例へば北米合衆國人の如きは常に其點に於ては誇つて居りま

すけれども右の如く黒人を取扱ふ上に更に甚しき一例は殘忍、獐猛を極めし例のリンチングである、又現に支那人を排斥し我が日本人をも排斥して所謂異人種の移民排斥など、云ふ正義



人道に外れたる事特にカリホルニアに於ける彼の學童問題や、日本人の住宅侵害問題を青天白日に實際堂々こやつて居るではございせんか殊に合衆國人の内博愛慈仁の代表の如く尊敬せられ非常に偉い人だ云はれるジョルダン博士が此間來て此移民問題に付いてどういふ事を言つたか今は未だ北米カリホルニアに日本人を容れる時機でない白人がカリホルニア地方に於て堅固に根據を固めた上ならば差支がないが今の所はチト困る云ふ様なことを申して居つた一視同仁で博愛慈仁の代表だ云はる、ジョルダン博士すらなほ斯ういふ僻見を懷いて居る、どうも白哲人種は到底此世界の有ゆる人種を平等に待遇親和して行く云ふかは乏しいことが明白であります唯日本人獨り之れが出来ますのである之れはナカク、

大なる特長であります。

第六には何を數へるかご申します、こは最も諸君の得意な所である即ち東洋の文明を充分理解し同時に西洋の文明をも充分に理解し東西兩文明の粹を咀嚼して行く所の力を以て居る國民である云ふ點である、今日に於ては歐米の人々に東洋の文明を熱心に研究する人がある中には日本人以上の人もあるやうでありますけれども然し一體に歐米人に六ヶ數研究である随つて其研究者の數も甚だ少い東洋の事を知つて居る者は矢張り日本人である東洋の文明を研究しやう云へば日本人には多少學問をした學者であるならば容易く出来る而して其學者が同時に歐米文明の眞理を充分咀嚼する事も出来る、こは日本人古來の特長であります例へば支那の學問を輸入して



研究するに充分咀嚼して支那以上のものにする、印度の學問を輸入して佛敎の原理を研究するに云へば、是亦印度本國以上の發達を遂げて居るのである、是れ東洋文明の粹を咀嚼し同時に西洋文明の粹を咀嚼することの出来る能力、智力及び便宜を持つて居ると云ふことは、實に最も大なる特長ではありませんか

### ○平和的世界統一を新國是とすべし

サテ斯の如く數へて見ますると云ふに我帝國の前途は中々に有望である、此六大長所と云ふものは、他の五大強國が到底争ふ事の出来ない、企て、も及ぶことの出来ない特長である、去れば此長所の中養成すべきものは、ます、是れを養成して偉大ななすことに勤めたならば、他年一日世界が統一されて、茲に一

世界の完全なる候補者

新國是の精神

の主權國が出来ると云ふ事になつた場合には、我日本帝國は即ちその優秀なる其完全なる候補者ではあるまいか、私の所謂宇宙哲理の支配の下で、人爲的でなく、當然來るべき必然の運命であるのではあるまいか、私はさう斷言するを憚らぬのであります。

是に於てか私は茲に新國是を定むるの提案を致します、如何に新國是を定めるか即ち私は次の如く定めたい。

東西の文明を調和して世界統一的の新文明を作り出し、さうして宗教の異同は無論問はず、人種の異同も亦論ぜぬ、言語の異同も風俗



習慣の相違も勿論言はぬ、黄色人種も、白哲人種も、黒色人種も、赤色人種も、總ての人種を一切平等にし、之を真正の意味に於ての同胞兄弟とし、互に相愛し、互に相助け合つて、其生々を樂む處の一の世界的大帝國を建成し、而して、貳千五百有餘年連綿として續いて來られた我皇室を戴いて、此世界統一帝國の主上大陸下と仰ぎ奉る。

と云ふ事である、即ち我日本帝國の新國是の精神を斯の如く定めたのである、之を

### 平和的世界統一政策

と云ふも亦可なりでございます。

### ○新國是の下に最も努力を要する 一問題

平和的世界統一政策は右の通り宇宙哲理の支配の下に人為的でなく自然的に必然に來るべき運命と申しても可いのであります、之をお互に自覺して新國是と爲すに就きては特に大に努力を要する所の問題があります、それは何であるか、云ふに我國の富力を養ふことである、殖産興業を盛大にして、金力を増加することであり、前に述べましたる如く他強國の競ふ能はざる六大特長を有しては居りますけれども富力の一點に



至りては残念ながら何れの強國にも遠く及ばぬのであります、若しも我國の富力が今日大英國又は北米合衆國のそれと相匹敵するの程度に達して居るならば所謂鬼に金棒であります、今日只今でも世界統一の主位に立つべき候補者として既に完全であり又優秀であるのであります、故に國是を茲に定めて此の富力養成の一點は國民上下一致して奮闘努力すべきであります、而して此富力養成の事は難事には相違ありませんけれども、不可能の事ではない、企て、必ず達し得べきものである事は、他強國の過去の事實が之れを證明して居ります、我國の能力智力を以つて努力すれば遠からずして相當の位置に達します、のは我國過去現在の事實も亦之れを證明して居るのであります、此問題に就ては既に識者間に種々の論策もあり、不肖私

富力養成  
に關する  
二つの  
條件  
意注

にも亦愚案がないではありませんが、茲には唯富力養成の要件たることを論ずる丈に致して置きませう、但し茲に二個の條件を加へ、置き度きは此富力養成の爲め、前述日本帝國の特長を失はぬやうにすることである、世には富力養成に熱中して之が爲めに他の大切なことを忘却するもの少からず、富力養成が國事人事の大目的であり又唯一の本願である如く、誤認して居るものが多い様である、現に歐米諸國に此例少からぬ様であるが、我日本帝國の或部分にも此種誤認者は少くない様である、今一つは富力を得て其富力に酔狂する事である、之も北米合衆國あたりには随分面白き實例が澤山あるが、貧乏國の我日本にも近來此種の金酔狂者が少からぬ様に思はれる、僅か許りの富を得たりとて金酔狂に陥るが如きは氣の毒であるけれども、之は人



情陥り易き弱點であらう。兎に角に國として富力養成の要件であると同時に國人が之を唯一の目的とし本願とするの誤解と金醉狂と爲ることは共に我日本帝國の特長を損傷するものであるから世の識者は此點に十分の注意を願ひたいのであります。

### ○平和的世界統一は日本の天職なり

諸君私の提案する新國是は已上の通りであります。開國進取は今日迄の國是にして或は相當であつたでありませうが、日清日露の戦争を爲し世界強國の中に加りたる帝國が此の殿々として日に新に又日に新に進んで行く二十世紀の今日に處して行くにはちと古くはありませんか。一日も早く此宇宙哲理の命

ずる所に依りて自然に來る運命とも云ふべき否我帝國の天職とも云ふべき此平和的世界統一政策を國是とし國民の上下一致して此國是に向つて奮闘努力すべき時機に迫つて居るではありませんか。學者政治家は勿論のこと宗教家も文學者も美術家も工業家も商業家も農業者も各階級者總て皆此國是に向つて奮闘努力を爲し瞬時も怠ることの出來ぬ時機であること信ずるのであります。結論に先ちて私は諸君に一言の御注意を乞ふて置きたい。それは平和的世界統一政策の名稱によりて種々の誤解を來すことである。現に高木代議士の如きは其一人でやれ外交問題を惹き起すの軍備擴張で國が亡ぶるのやれ氣が狂ふて居るから議院に送らずに癡狂院に送れのと絶叫した位である。此等は此宇宙哲理の何物たるを問はず單に其名稱によりて



自分丈の想像を下し、世界統一政策と云ふから武力によりて世界を征服するものと誤解したのであらうと思ひます、日本人でさへ斯様の誤解をするものがあるから例の北米合衆國邊の左なきだに兎角の説を製造して平地に波瀾を起さんとする好事家は種々の説を爲さぬとも限りませぬ、然れども私の所謂平和的世界統一政策は、正々堂々として正義人道を行ひ、宇宙哲理の命ずる所に従つて我日本帝國が其天職とも云ふべき必然の結果を自覺して國事に奮闘努力すべしと云ふに過ぎないのであります、一箇の銃丸をも發せず、一の砲彈をも用ゐず、一滴の血を流さず、一兵を動かさず、一軍艦をも要せずして無事に平和に世界統一を爲さんとするものであります、若しも耶蘇信者の言を借りて申すならば實に神の心に従つて其最後の希望に應ずる

事を遂ぐるのであります、又佛者の言を借りなば佛の本願に叶ふ所を實行するのであります、崇高偉大なる我日本民族建國已來の理想を實現するのであります、此間夢にも他國人に害を與ふるが如き近世の所謂外交的、政略的の意味は毫もないのであります、權謀術數を用ゆる覇道は之を排斥するのである、正義と人道を基とせる蕩々たる王道を主とするのであります。

○ユートピヤにあらず焦眉の急問  
題なり

終りに臨んで一言の附加を爲したきは私の議論が一のユートピヤに過ぎず或る新聞の所謂亡者の世迷言として現在の人事に没交渉なるが如く誤解する人に對する注意であります、成



程通俗的、近眼的に考へたならばさう誤解するも無理ではあり  
ますまい、併し靜に世界の形勢を熟考する時は決して其然らざ  
るを了知することが出来ませう、世界の過去を回顧すれば歴史  
ありて已來の事が已に頗ぶる悠遠ではありますけれども、其進  
歩の實跡に就きて觀察すれば近世に於て特に變化の驚くべき  
ものあるを見るのであります、今後の變遷進歩は更に著る  
しきもので例へば其事情は丁度山上より石を轉下するが如き  
ものでありませう、最初はゴトリ／＼と緩かに落下すれども次  
第に速度を増加して仕舞には急轉直下と爲るのと同じく過去  
に於て數百年を費したるものは今後數十年にて成就すべく其  
の所謂今後數十年にて成し遂げたることは更に其後に至らば  
又數年で出来る事になるは火を視るよりも明白であります、三

十年前に信州の青年が伊勢参りに費したる日數を以て今日で  
は世界一週が樂に出来る而して之が又遠からず五日、六日に短  
縮し、さうに見ゆる同宗の異派同志相殺傷して争ふたる宗教家  
が異教同志一堂に同席して互に教義を語る杯の事實を考へて  
も直に考へ及ぶべき事柄でありまして、私は我日本帝國々民が  
今日に於て此哲理の命ずる所なるを自覺して新國是を定むる  
は寧ろちと遲きに過ぐるの憾がないかと思ふのであります、否  
實に我日本帝國の爲に圖れば此國是を定めて奮闘努力すべき  
ことは實に焦眉の急であると思ひます、政治科を専攻なさる青  
年の諸君が私の此の論に就きて充分に批評をして下さること  
を希望致します、愚痴を申すのではありませんが、現代の老壯者  
は學者も、政治家も、宗教家も、文學者も、美術家も、工業家も、商業家



344  
112

# 發行所

東京市日本橋區本町三丁目  
振替貯金口座東京二四〇番

# 博文館

著作  
所有

大正元年九月二十八日印刷  
大正元年九月三十日發行

〔平和的世界統一政策奥付〕  
定價金貳拾五錢

著者 鈴木梅四郎  
東京市日本橋區本町三丁目八番地  
發行者 大橋新太郎  
東京市小石川區久堅町百〇八番地  
印刷者 水谷景長  
東京市小石川區久堅町百〇八番地  
印刷所 博文館印刷所

## 平和的世界統一政策終

も、農業家も、一般に不眞面目の人が多くて心細く感ぜらる、世の中に唯々頼母しく思ふは銳氣に満ち活氣に富み眞面目なる而して文明の教育を受けたる青年諸君のみでありますから特に眞面目に御批評を祈る次第であります、長時間御清聴を煩はしたる一段は敬んで御禮を申上ます。(拍手)







344  
112



終